



SAGA 2024

新しい大会へ。すべての人に、スポーツのチカラを。



「新しい大会へ。すべての人にスポーツのチカラを。」を大会メッセージとして、第23回全国障害者スポーツ大会が令和6年10月26日(土)から28日(月)まで3日間の日程で開催され、全国から選ばれた選手と役員が佐賀県に集結しました。

本県からも選手37名、本部役員38名の合計75名の選手団が参加し、国内最大級の吉野ヶ里遺跡や日本三大松原の「虹の松原」など、様々な名所のある佐賀県内の各競技会場において熱戦が繰り広げられました。

開会式には、「SAGAスタジアム」に秋篠宮皇嗣同妃両殿下の御臨席を仰ぎ、本県選手団を代表して陸上競技、水泳、ボウリングに参加する選手・役員39名が、小雨の降る中にもかかわらず堂々の入場行進を行いました。

この大会での本県選手団は、陸上競技・水泳・アーチェリー・卓球（STTを含む）・フライングディスク・ボッチャ・ボウリングの7つの個人競技に参加しました。選手は、宮崎県代表としての自覚をもち、十分とは言えない練習環境の中でコーチとともに精一杯努力をし、全力で競技した結果、金11個、銀14個、銅12個の合計37個と昨年の鹿児島大会に迫るメダルを獲得することができました。

これも、これまでサポートをいただいたコーチや家族、関係者の皆様、声援を送っていただいた県民の皆様のおかげであると深く感謝いたします。

最終日の競技終了後、全選手が「SAGAアリーナ」に集まり、高円宮妃殿下の御臨席の下、閉会式が行われ、佐賀県出身の歌手、鷺尾伶菜さんのパフォーマンスで会場内が一体となり、最高の盛り上がりを見せる中で閉会しました。

今年度より、国体の愛称で親しまれてきた国民体育大会が「国民スポーツ大会」へと名称が変わりました。それは、この時代に合うカタチが求められているからです。今回の第23回全国障害者スポーツ大会SAGA2024では、新しい大会、そして、スポーツ文化の新時代の第1歩となるために、「する～選手も、選手でない人も、誰もが楽しんでスポーツに参加できる大会へ」「観る～観戦を通して、感動を共有できるシーンを創出し、エンターテインメント性の高い大会へ」「支える～佐賀のスポーツシーンを支え、みんなで力を合わせ、つくる大会へ」をモットーに、県民の知恵と力を出し合う素晴らしい大会でした。令和9年度に全国障害者スポーツ大会の開催が決定した本県としては、学ぶところの多い大会であり、参加した本県の選手たちも、大きな刺激を受け、今後の成長に繋げていく実りの多い大会となりました。

